

日本キリスト教団  
松代教会  
TEL 0278-81-5511  
FAX 0278-81-1911  
印刷 ハニウ印刷所

## 聖句

「言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた。私たちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて恵みと真理とに満ちていた。」

(ヨハネによる福音書 一章十四節)



松代教会牧師 木原 盛行

「〇一三〇年のクリスマスを迎える季節となりました。毎年のようにめぐるクリスマスです。いつものようにクリスマスには、「クリスマスおめでとう」と共にあいさつを交わします。しかし、ときどき思うのですが、クリスマスの何が一体「おめでとう」なのでしょうか。毎年めぐりくる事柄であるがために、お決まりの言葉になつていることはないでしょうか。クリスマス物語でよく知られ、幼稚園の降誕劇(ベージュント)でも行われるお話の中で、夜野宿していた羊飼いたちに天使が現れて「すべての民に与えられる大きな喜びをあなた方に伝えよ」とあります。すべての人々

に与えられる大きな喜びが、天使によつてもたらされたそれが、クリスマスのメッセージです。神から全人類に与えられる大きな喜びの内容は救い主として生まれたイエス様のことです。

家畜小屋の動物の餌を入れる飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子として生まれてくださったのです。天の栄光に包まれている方が、誰も生まれることのない場所にお生まれになり、そこまで低くなつて来てくださったのです。

当時の羊飼いは、世間から低い身分として差別されていました。なので、人々が暮らす町や村に入ることは嫌がっていたのです。

しかし、イエス様の誕生をま

ず知られたのは、羊飼いでした。そして、羊飼いたちが急いで出かけることができたところが、宮殿でもなく、人々がいる家の中でもなく、他でもなく、家畜が住む家畜小屋の飼い葉おかげの中に眠る乳飲み子がいるこの場所だつたのです。

実は、イエス様は、誕生の時だけでなく、その生涯そのものが低くなられ、弱い者、貧しい者、友となられた方でした。フィリピの信徒への手紙2章6節以下に、「キリストは神の身分でありますながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえつて自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになられました。人間の姿で現れ、へりくだつて、死に至る

まで、それも十字架の死に至るまで従順でした」と証しています。讃美歌でも「狐には穴があり、鳥には巣あれど、人の子には枕するところがない」とうたっています。

そして、このお方の生涯は、十字架の死をもつて閉じることになりました。しかし、父なる神は、この御子を死の中に閉じ込めておくことをなさらず、三

日目に復活させてくださったのです。神であるお方(イエス様)が人間の姿を取り十字架への道を歩んだござり、そして、死に勝利される道を開いてくださったのです。この方においてなされたすべての御業は、わたしたちに対する神の愛以外の何物であります。

それは「私」や「あなた」を救うためであり、「神の子」と

クリスマスのご案内

松代教会の

クリスマス礼拝

12月24日(日)

午前10時15分から

★子どもの教会学校クリスマス礼拝

12月17日(日) 午後1時～

イヴ礼拝、キャロリングは  
今年も中止となりました。

して私たちを豊かな人生へと招くべき事柄です。

「クリスマスおめでとう」と言いかながら、この驚きを忘れてしまっているのではないでしょう。

イエス様が飼い葉桶に寝かせられているということは、知識としてよく知っているのです。しかし、この私を愛するために、誰もがイエス様に会いに行かれ

るよう、そこまで低くなつてくだけたということを、心で受け止め、教会は、真の驚きを毎年取り戻さなければならぬと思つのです。

あなたのために自らを低くして、私たちを愛するために来て下さったイエスキリストを心から受け入れ、祝うクリスマスでありたいとも思います。

「クリスマス  
おめでとうございます」

## 優れもの階段昇降機

倉澤裕子

リモコンを操作していただきで昇降機が音もなく静かに階段を降りてくる。腰をおろして座つてから昇りのスイッチを押すと動き出す。安定した速度でゆっくりと昇る二十段の階段を安全に運んでくれる。スイッチの押す手をはなすと停止してくれる。そして礼拝に私を導いてくれる優れものである。礼拝堂まで杖と人の手をお借りしてたどり着く。定位位置について礼拝のはじまる準備に入る。今日の聖書個所や讃美歌の頁にしおりをはさみ、静かにはじまりを待つ。昇降機のおかげで今日も来られた事を有り難く思つ

ているところである。

骨折して入院中にも週報を届けて頂いたり、婦人会の皆さんからクリスマスカードの寄せ書きを頂いたりして励ましていたとき感謝でした。退院して早く礼拝に参加したいと思い続けておりましたが、あの階段を昇るのは心配だと思つていたところでした。昇降機の工事のことが週報に載つっていましたので、早い完成を願つておりました。入院一ヶ月は痛みに耐える日々でしたが、その痛みもこれでリハビリ専門の生活が始まりました。歩くことは人間の基本的なことであるのに、こんなに難し

いものかと思ひました。一本足でしつかり立つて歩を進める何でもない事なのに、うまく歩けない情けない気持ちに鞭打ち、リハビリに精を出しています。今更ながら健康の有難みを嘆みしめております。骨折したら寝たきりになると言われておりますが、寝たきりにもならず何とか独り暮らしが出来ていることは感謝すべきではないかと思つております。

私には居場所がある。教会の椅子が待つてくれる。聖書には好きな箇所がいくつもありますが、イザヤ書に平和について書かれています。「主は国々の争いを裁き多くの民を救められる。彼らは剣を打ち直して鍔とし槍を打ち直して鎌とする。國は國に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない。」(イザヤ一・一四) ロシアが仕掛けた戦争が一日も早く終結する事を祈るばかりです。



▲ 7月から利用されている階段昇降機

松代教会ではこのたび、二階まで上がる昇降機を設置し、二〇二三年七月から利用を開始しました。写真のとおり、階段に設置したレールに沿つて専用の椅子が昇降するものです。松代教会は、一九八八年の新築に際し二階に礼拝堂を作りましたが、建築当時はあまり想像ができないかた少子高齢化が今は社会問題になっています。教会も例外ではなく礼拝者も年齢を重ね、「二階まで階段を上がれないから礼拝に出席しづらい」とか「エレベーターを設置できないか」などの声が、これまでにたびたび出されていました。

今回教会が導入した昇降機は、車椅子のままで乗れるものではありませんが、二階まで上がつたあと昇降機の椅子から礼拝堂の椅子まで移動するための車椅子も準備しました。足の不自由な方だけでなく、階段の上り下りに

## 昇降機設置と礼拝への誘い

長谷川 浩一



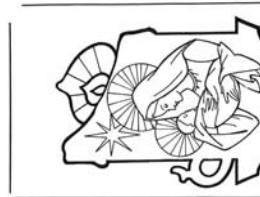
▲ たり回しのよい椅子

少しでも難儀する方ならどなたでもご利用いただけますので、ぜひ、気軽にご出席ください。

なお、礼拝は、毎週日曜、午前十時一五分から始まります

で、十時ごろまでにはお越しいただき、昇降機の利用が必要な場合は、牧師か教会関係者に申し出てご利用ください。

また、出席されるときはあらかじめ連絡をいただいていると、よりスムーズにご案内できます。



# 松代幼稚園での日々

木 原 めぐみ

「ひかりのお城」

作詞 山川啓介  
作曲 福田和禾子

昔 真田のふとのさま  
住んでたこの町  
今はわたしのがほくが  
明日を見上げます  
いっぽい遊び子  
いっぽい笑う子  
いっぽい夢見る子  
神様は大好き  
みんなみんな干ラキラしてゐる  
松代幼稚園  
ひかりのお城です  
山に負けずに伸びるんだ  
長野の子たちの  
ぼくのわたしの元気が  
地球を回します。  
いっぽい友達  
いっぽいお祈り  
いっぽいありがとう  
神さまと約束  
みんなみんな今日も幸せ  
松代幼稚園 心のお城です  
これは松代幼稚園の園歌です。



この曲は、一千五年前、保護者会の講演で山川啓介先生を招いた際に「北風小僧の寒太郎」や「そうだつたらいいのになな」などの作詞・作曲したお二人に作っていただいた曲です。大事に歌い続けていく素敵な歌ができ感謝しています。「松代幼稚園ってどんな園?」と聞かれたたら、この歌詞の通りの子ども達がいる幼稚園ですと言えるでしょう。

毎日子どもの話を聞き、子ども達に囲まれている、それだけでとても幸せです。

前園長田中先生夫妻から引き継いで二十九年、地域に愛される幼稚園として歩むには、たくさんの方々に支えられ、守られて来たことを感じます。松代は、たくさんの歴史や自然が残る素敵なところです。九十四年目の幼稚園であるので、町の方々とお話しすると、「昔私が」「うちの子ども達もお世話になつた」ということもよく耳にしました。

子ども達は、それぞれがかけがえのない存在で、どの子も神様に愛され、神様からそれぞれ

に素敵な賜物(ギフト)を与えられています。それを生かして輝かせることができれば、自分だけでなく、周りの人たちのためにも生かすことができるはずだと願って保育を進めてきました。

聖書のお話を聞いたり、讃美歌を歌つたり、聖書のみ言葉を覚えたりするとともに、毎日朝に、昼に、帰りに共に神様に感謝をしてお祈りをします。

年長にもなると、帰りにみんなの前で代表して今日あつたこと、神様に伝えたいことをお祈りします。「今日はみんなでお散歩に行つてくることができ楽しかつたです。」「お休みしている子が元気になつて明日は幼稚園に来れますように。」世界で起こっている戦争のこと、災害のことにも目をとめて、「世界中の人に守つてください。」とお祈りする子もいます。それが本当に大事なひと時です。卒園してしまうとお祈りをする生活から離れてしまうので、恥ずかしくてお祈りしなくなつてしまふようですが、つらいことや困ったときでも思い出して、神様とお祈りができるほど願っています。

思い切り遊ぶ時と、心を静めてしまふに話を聞いたり歌を歌つたりできること、自分が良ければいいのではなく、お友達

のことを考えて過ごすことなど、毎日の生活中で、培われて来たことです。そのために教職員のみんなが、心をかけ、いろんな経験ができるように考え、計画して子どもと遊び合いながら過ごしてきましたように思います。

その一つが十七年前から園の特色として全園児で行つてきた劇遊びです。今年は「しょうばうじどうしゃじぶた」という絵本から劇遊びを作り上げて楽しんでみました。様々な表現遊びや運動遊び、オリジナルの歌を歌つたり、絵をかいだり、車を作つたり様々な経験を活かし十一年には、劇公開を行いました。二歳から六歳までの子どもたちが一緒に作り上げる劇遊びです。協調性や、創造性が身につくとともに、異年齢の関りも増え、家族の人たちも巻き込んでみんなが劇遊びのことで一つになれることが何よりもうれしく、一人一人の子どもの成長を感じる行事となつています。誰が主役でわき役ではなく、みんなが主役なのですから。

コロナ感染症によってこの二年は、関りを持つことが規制され、いろいろな人との関りの中で育つことが大事な時期に保育が思うようにできず行事も中止、制限の中で行われてきて、やつと今年になつて、今まで通りに活動ができるようになつて

きました。子どもの幼児期は、一度だけしかありません。その大事な時期にコロナ禍では、それが制限されましたが、子どもとゆっくり、じっくり関り、過ごすことができたことは、実は、とても大事な時であったとも感じています。本当に大事なものは何だかわからなくなつてゐる時代に、踏みとどまって見つめ直す良い機会でもありました。うまくいくことより、うまくいかないことのほうがたくさんあるのですが、それを十分に経験するべきなのが幼児期なのです。たくさん失敗をしてそれを乗り越え、工夫して前に進んでいきましょう。

どんな時でも、神様は必要なもの、時を与えてくださつていて感じます。回りの人々に、神様に感謝して過ごす中で、自分一人ではなく、たくさん的人々に支えられて生きていることを学んでいくのではないでしょうか。いつもでも、子どもたちが光の子として歩んでいかれますように。



## 松代幼稚園のクリスマス行事について

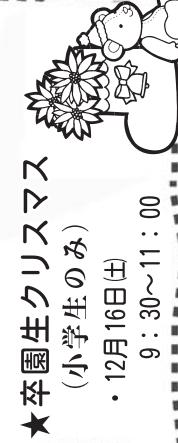
◎クリスマス礼拝

12月15日(金)

★年長ページント(降誕劇)公開

12月21日(木) 14:00~14:30

(どなたでもご覧できます)



★こひつじクリスマス(未就園児)

・12月5日(火) 9:30~11:30

★卒園生クリスマス

(小学生のみ)

・12月16日(土) 9:30~11:00

## 幼稚園での日々を振り返つて

保護者 宮崎 美智子

長女が松代幼稚園に入園し、その後次女、長男と我が家のある人の子供たちがお世話をになり、この3月に末っ子の長男が卒園を迎えます。長いようであつという間の6年間の幼稚園生活でした。

子供たちは幼稚園で先生方にあたたかく見守られ、やりたいことを自由に思いきりやらせていただきました。日々レベルアップしていく工作やお絵描き。靴や

り遊びました。いつの間にかこんなことができるようになつたんだ!と驚かされることが何度もありました。興味をもつたことにより深く触れていくことは、本当に楽しかったと思います。また、苦手や不安に感じたことも、お友達と一緒に経験することで楽しさを感じられた時もありました。様々な経験を通して子供たち自身を感じ学んだこと、得られた

自信は、この先につながる宝物になつていいくと思います。

ゆうくりペースで育つ長女の成長に大きく不安を感じていた頃、松代幼稚園に出会いました。松代幼稚園に通い一人ひとりの個性の大切さや素晴らしさ、誰もがかけがえのない存在であることを感じていく中で、次第に不安よりも、子供たちそれぞの良さに気づけるようになつてきました。この子にはこんなにも良いところがある!と思うことことができたことで、子育てがより豊かなものになつていきました。また、先生方が共に子供たちを

見守つてくださる安心感を持ち、子供たちの成長を喜び、悩み、楽しめたことは、私たちにとっても、本当に幸せなことでした。

この6年間には、台風による被災やコロナウイルスの感染拡大など穏やかなことはかりではありませんでしたが、どんなときも幼稚園は子供たちが安心して笑顔で過ごせる場所でした。身体も心も大きく成長する大切な時期を信頼できる先生方とお友達、たとくさんの愛と笑顔に囲まれ、松代幼稚園で過ごさせていただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

## 神様に導かれて

保育教諭 竹内 麻由美

私が松代幼稚園で働かせていただこうになつて今年で十年になります。松代幼稚園は叔父の卒園した園でもあり、私が学生の頃に実習させていたいたい園でもあります。よく園長先生が職員に、神様に導かれたののような縁を紡いで下さり、子ども達はもちろん、職員に対しても愛情溢れる園で過ごさせていただき、感謝の日々です。

さて、今年度の大きな変化というと、コロナが5類になり、以前のような生活が少しずつ戻つ

てきたという事でしよう。今までは制限も多く、「もつとこういう活動がしたいのに」「子ども達の成長を妨げているのでは」等ともどかしく思うことも多々ありました。すっかり元通りという訳にはいきませんが、参観や運動会等に多くの方に来ていただき、日々の楽しい事、自分の頑張りを皆さんにみていただけて、子ども達はもうろん、職員に対しても愛情溢れる園で過ごさせていたいたいです。

口ロナ禍ではお散歩に出掛けける事ができ難しい事でした。今のこの安心して園外に出掛けられる日常は、何て幸せな事なんだろうと痛感します。子ども達と一緒に、たくさん幸せを噛みし



めた一年でした。

園恒例の劇遊びは、「しようぼうじどうしやじぶた」の絵本を元に活動しました。絵本の世界を味わい、絵画や制作活動、劇あそびを楽しんだ子ども達。消防署見学をさせていただいたり、町を歩きながら火の用心とかけ声をかけたりと、様々な活動を楽しみました。日々柔軟に適応したくましく過ごす子ども達。小さいけれど大きな力を秘めているいじぶたの姿と重なります。「しようぼうじどうしやじぶた」は、周りの人と比べない事の大切さに気付かせてくれます。神様は一人ひとりに賜物をくださいました。人と比べる事なく、子ども達が愛情をいっぱいに受け大切にされているという心の満足感を、大いに感じられる生活ができるよう、今後も努めていきたいです。